



サード・エイジこそ人生の黄金期

お待たせいたしました。2月に引き続き、編集委員が楽しく人生を語る座談会に皆様をご招待(?)いたします。どうぞ好きな飲み物をお手元に用意してゆったりと、はたまた、用事をしつつ耳を傾けて、編集委員の和氣^{あいき}語々としたトークをお楽しみください。

今回は、人生の後半戦、サード・エイジをどのようにとらえ、どのように生きていきたいかを考えながら、「だからこそ、長期投資!」「だからこそ、品格ある個人投資家!」を再確認した座談会でした。また、クラブ・インベストライフの活動をもっともっと意味あるものにするための話題もあふれています。

では、1時間ほど一緒に、人生について考えてみましょう。
(ここでは、座談会の一部を抜粋して掲載いたしました)



【収録時間】

- 第一部 ●人生後半を輝かせたい/約30分
 - 第二部 ●クラブ・インベストライフの今後/約35分
- ※CDに不具合がありましたら、ご連絡ください。

【ぜひ、あなたのご感想をお寄せください】

CDをお聞きになった感想をぜひ、お聞かせください。また、併せて、人生の後半戦、サード・エイジをどのようにとらえ、どのように生きていきたいか? あなたさまのお考えもお寄せください。

I-Oウェルズ・アドバイザーズ(株) クラブ・インベストライフ係 富田

人生の後半戦、サード・エイジの生き方についてどんなお考えをもっていますか? また、そのために、どんな準備が必要でしょうか?

澤上: 気がついたら自分も人生後半なんだけれど、世の中おもしろいことがいっぱいありすぎて人生後半なんていう意識、全然ないねえ。(笑)

先日、10年ぶりにばったり知人に会ったら、「澤上さん、若返ったねえ」と驚かれた。自分は朝から晩まで馬車馬のように仕事をしていて、ちっとも変わっていない気がしているし、自分で会社を興して頑張ってきたことで若さが保たれているのかもしれない。思い切って転機を持ったことで、違いが出たのかもしれないと気づき、独りニンマリしたよ。

社員にいつも言ってるんだけど、感嘆符が飛び交う会社にしたい。自分の幸せだけ考えてたら驚きは少ない。だれかのお役に立たせてもらうという気持ちがあ



伊藤 宏一
(いとう こういち)
／編集主幹／司会

【プロフィール】

千葉商科大学大学院教授（ライフプランニング論）、ソニー株式会社FP相談室顧問。日本ファイナンシャル・プランナーズ協会常務理事（教育担当）、CFP・税理士。著書に『ライフプランニング理論と事例ー』（セールス手帖社）『金融商品なんでも百科』（平成17年版 監修 金融広報中央委員会）『自分の年金は自分で作る』（共著、実業之日本社）等、多数。



澤上 篤人
(さわかみ あつと)

【プロフィール】

ファンドマネジャー。さわかみ投信株代表取締役。ジュネーブ大学付属国際問題研究所・国際経済学修士課程修了後、スイスのピクテ銀行日本法人代表、ピクテ・ジャパン代表取締役を経て現職。主な著書に『あなたも長期投資家になろう』『株安の今こそチャンス！成功する長期投資』などがある。



村山 甲三郎
(むらやま こうざぶろう)

【プロフィール】

ファンドマネジャー。日本の銀行に勤務の後、外資系証券会社で外国債券の営業責任者を務める。その後米国の運用会社で日代表を経て、平成17年より新設の独立系投信会社（ありがとう投信株）の社長兼運用責任者。主な著書に『ファンドオブファンズ入門』（共著）がある。

ると、小さなことにも感動を覚えることができるんだよね。人生も同じだね。

伊藤：伊能忠敬は49歳まで商売をしていたのですが、家督を長男に譲り江戸に出て、自分より19歳も若い天文学者のもとで5年間、新しい学問に挑戦します。日本全国の地図の作製に着手したのはそれからで、歴史に名を残すことになる功績は、人生の後半期になされたんですね。

セカンド・エイジは仕事や子育てに費やされる段階です。でも、それがサード・エイジになると同じ仕事をするのでも自分のやりたいことをしたり、人々の求めていることをしたりできるようになる。

サード・エイジにライフワークに取り組むためにも、気力、体力、知力を蓄え、経済的自立をすることが必要です。

岡本：日本の定年退職とリタイアメントはかなり違うと思うんですね。定年退職は終身雇用の会社を辞めること、リタイアメントは働くことを止めることです。実はその間にかなりの期間があります。定年後は定年前にやりたくてもできなかったことをするためにあるのではなく、未来に向けてやりたいことをする時期だという発想が大事だと思います。

定年を境にして人生のプライオリティが変化します。それまでは会社のため、生活や子育てのための生活だったものが、定年を境に自分自身のための生活になる。そのためにも若いうちから資産を形成していくことが必要なのです。

村山：いろいろな経済人の例をみても、サード・エイジはひと仕事できる時期になってきていると思います。

また、団塊の世代という大きな塊がいつも時代を動かしてきましたが、その世代が人生後半期に入る

ようになり、新しい形で世の中に大きな影響を与える力になっていくと思います。

今までの団塊の世代のイメージは、常に集団で動いている感じがありましたが、これからは、個人個人がいかにかきたいのか、個性あるサード・エイジの生き方を、我々後輩に示していただけるとありがたいと思います。

そのためにも、クラブ・インベストライフでいうところの自立、経済的基盤が重要だと思います。

速水：私は昨年40歳となり、それを機会に、先月号でご紹介したジェーム・アレン氏の『「原因」と「結果」の法則』を読み返しました。

毎日の忙しさのなかでつつい忘れてしまいがちなのですが、いちばん大切なのは「自分はどんな人間になりたいか？」という問いかけだと思います。常に自分に問い続けることが、きっと自分の将来を大きく変えていくと思いますし、それこそが、人としての成果、また、生活や投資のうえでの成果なども決めていくのではないかと思います。

平山：私も速水さんと同じ世代です。今からどう準備するかということで、3つのことを考えています。ひとつは自分の視野を少し広げること、二番目に自分の視点を少し長くすること、そして、最後に自分の枠を少し広げること。これを40代、50代の時から心がけていると、60代以降が随分、変わるのではないかと思います。

年をとって体が動かなくなっても、投資することで、自分の思いを現実の社会で実現させながら生きていくことができます。社会との繋がりがこそ生きることと思えば、年をとろうが、長期投資はずっと永遠に続いていくものなのだと思います。



菱川 精記

(ひしかわ せいぎ)

【プロフィール】

日興証券国際営業部、ロスアンゼルス、ニューヨーク勤務の後、日興アセットマネジメントにて、年金部門の株式運用業務担当。日本株式を中心に30年以上にわたり、運用関係業務に従事。日本CFA協会事務局長ならびにありがとう投信運用顧問を経て、現在、ダルトン・インベストメンツ株式会社マネージングディレクター ストラテジスト。CFA協会認定証券アナリスト、CFP。



速水 禎

(はやみ ただし)

【プロフィール】

朝日ライフアセットマネジメント(株)シニアファンドマネジャー。野村證券入社後、野村アセットマネジメントなどを経て、2000年より現職。主な著書に『SRI 社会的責任投資入門』（共著、日本経済新聞社）などがある。



平山 賢一

(ひらやま けんいち)

【プロフィール】

アセット・アロケーター。東京海上アセットマネジメント投信(株)チーフ・ストラテジスト。大和証券投資信託委託株内外債券ファンドマネジャー、東京海上火災保険(株)を経て、現職。主な著書に、『ハートで感じる長期投資の始め方〜毎月1万円からの資産形成〜』（エクスナレッジ）など URL：金融史の光彩

今後のクラブ・インベストライフについて どのようにお考えですか？

岡本：2月に新体制でスタートしたときは不安で一杯でしたが、会員の方の温かいサポートと編集委員・講師陣の絶大なご支援でなんとかやってきました。

会報誌は、理念、実践、会員コミュニケーションの3本柱でやっていきたいと思えます。

ご希望が寄せられていた、定例の東京セミナーの音声をホームページにアップできるようになり、ご参加いただけなかった方にも、聞いていただける体制が整いました。

各地でサロン設立が続いています。できる限りのサポートをしていきます。

輪が広がることで、日本中をカバーする長期投資の一大ネットワークができつつあるように思います。いつか、「個人投資家宣言」のようなものを採択し、世の中に問うことができれば素晴らしいですね。

村山：官と民の間に「第三の領域」があるといわれますが、クラブ・インベストライフの活動も、官でもなく、民でもない、大きな意味での「公（パブリック）」に属するものではないかと思っています。このような存在が、成熟社会にあって、社会を豊かにし、経済にも貢献していくと思っており、こういう活動が広がっていくことを願っています。

伊藤：「ものを言う投資家」には品格のあるものを言う投資家と品格のないものを言う投資家があります。クラブ・インベストライフの会員は、いい意味でのものを言う投資家になるという宣言をする必要があるのではないのでしょうか。

また、仲間が他の県にもいる、インターネット上でコミュニケーションを取れる仲間がいるということが長期投資の大きな支えになります。この半年でそれが実現する寸前のところまで来た。もう少しがんばれば大きく花開くところまで来ていると感じます。

クラブ・インベストライフは、一般の株式雑誌のように「〇〇の銘柄がいい」といった、結論を与える場ではなく、自分の頭で考え判断する力、自分で未来への意志と希望を持つという力を養う場であるといえます。「学問」とは問うことを学ぶと言いますが、問い方と自分なりの解決の方法論のヒントをたくさん散りばめていきたいと思えます。

澤上：この半年で「これ、いけるぞ！すごいぞ！」というのが見えてきた。見えてきた以上は、一気にスピードアップする必要がある。これからは予定がつまっている週末ではなく、平日の仕事が終わった後に地方に出かけて行って、勤めあがりの人に夜の勉強会を月に何本かしていきたいと思えます。

会員の皆さんには、ぜひアレンジャーになっていただきたい。これをこの半年ぐらいのテーマにしてやっていきたいと思っています。

地方の人が自信と誇りを持つための、ほんのちょっとした起爆剤になればいいと思っています。頭で考えていてもダメ。口だけでもダメ。行動がなければ。

もうひとつ、我々は書店に並んでいる本のように不安を煽るようなことはしません。しかし、「なんか起こるよ。ちょっと準備しておいてね」というヒントを発信したい。だから丁寧に、丁寧に会報誌を読んでもらいたい。いろいろな変化の兆しに対するヒントがきっとあるはずだから。

速水：半年たって理想に一歩ずつ近づいているのを



菅 淑郎
(すが としお)

【プロフィール】

ロンドン、東京で日本株式・外債のファンドマネジャーを歴任。80年代よりバフェットと長期投資に憧れ、インベストライフと出会う。個人投資家の目線で、子供たちが生きていくこれからの日本と世界を少しでも良くしていく長期投資を考えることが課題。CFA協会認定証券アナリスト、大手金融機関勤務。



岡本 和久
(おかもと かずひさ)

【プロフィール】

I-Oウェルズ・アドバイザーズ(株)代表取締役、CFA協会認定証券アナリスト。日興証券(株)ニューヨーク店、情報部などを経て、1992年、現パークレイズ・グローバル・インベスターズを設立、13年間代表取締役社長を務め退任。2005年、自らの会社を興す。主な著書に『瞑想でつかむ投資の成功法』(総合法令)など。
URL: <http://home.e06.itscom.net/okamox/>

今回、座談会にご欠席の
編集委員



渋谷 健
(編集委員)

【プロフィール】

オルタナティブ投資を専門とするコンサルティング会社、シブサワ・アンド・カンパニー(株)代表取締役。大手米系ヘッジファンドのムーア・キャピタル・マネジメントおよびゴールドマン・サックス、JPモルガンなどを経て現職。(財)渋沢栄一記念財団理事、社経済同友会幹事。文京学院大学客員教授。

日本はもっとも重要な資源を世界に大量に供給する過渡期にいます。それは、今まで仕事という「自己長期投資」でお金をせつせと作ってきて、今後はお金を使う側に回ってくる団塊の世代です。お金を作るだけでなく、そのお金をいかに賢く使うか。私の定義では、これが「資本家」であります。

賢く使うことは自分への再投資、他人への投資、もしくは社会への投資かもしれません。大資本家でなくても、たくさん「プチ資本家」を創出するのが今後の日本。プチ資本がたくさん集まれば大資本が出来上がり、これが資本主義の徳であります。



真壁 昭夫
(編集委員)

【プロフィール】

信州大学経済学部教授。慶応大学・立教大学講師。ロンドン大学経済学修士。みずほ総合研究所調査本部・主席研究員等を経て現職。日本商工会議所政策委員会・学識委員。東証アカデミー・フェロー。主な著書に『国債と金利をめぐる300年史』などがある。

実感しています。

クラブ・インベストライフに魅力を感じて集まっている人々は、自分の人生にも投資にも最高の質を追求していこうという意思のある方です。そして、その先には自分が世の中に貢献していこう、周りの人に愛情を持って接していこうという、やさしい気持ちと高い志があります。

そういう気持ちが、広く行き渡り、世の中を動かす力になっていけばいいなあ～と思っています。

最近、そういう姿がありありと頭の中に浮かぶようになってきました。思いが現実を作ると言いますから、きっと実現すると思います。

平山: このクラブ・インベストライフの活動は、自分にとって、前半で話した「自分自身の枠を少し広げる」という、その広げた領域にあるものです。少しでもお役に立ちたいとセミナーなどに伺うわけですが、例えば地方に行くとな当に勉強になることがたくさんある、感動があるんです。それが「心の肥やし」にもなっています。

繁華街のネオンがきらめいているような店ではなく、ヨーロッパの昔の町並みのなかで、ひっそりとしているけれどおいしいワインやチーズのあるお店といったような会報誌にしていきたいですね。

菱川: 最近、旧制高校が再評価されていますね。名を成した方などの発言でも、むしろ大学より旧制高校の方が自分の価値観の形成に役立ったという声も出てきています。

クラブ・インベストライフの各地のサロンもそれと似た部分があるのではないのでしょうか？ 地方に根ざした、地方の個性を持ったサロン。昔の旧制高校のあったところにサロンができてきているというのも地方の復権ということかもしれません。

クラブ・インベストライフが日本活性化のさきがけになればよいと思います。

菅: クラブ・インベストライフは「株主価値、株主価値」といって短期的利益のみを追い求めている投資家とは一線を画し、「こういう世の中になってほしいな」という意識を持った企業や人々を応援していけたらいいなあと思います。

先々の世の中を生きていく人、つまり、子どもたちが、「いい世の中をつくるのに、こんな考え方があったなあ」と感じられるような活動をしていきたいですね。